第５学年　特別の教科道徳学習指導略案

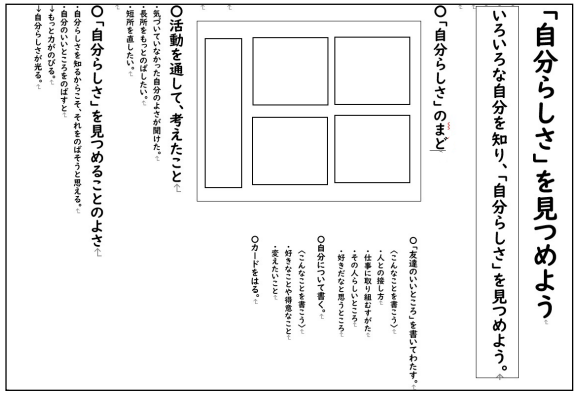
教科等	特別の教科道徳	主題名 ［内容項目］	自分らしさを知る ［A(4)個性の伸長］	教材名	「自分らしさ」を見つめよう
学級	５年５組	授業者		教室等	４階　５年５組教室

＜本　時　の　指　導＞

＜本時のねらい＞
「自分らしさ」を見つめることで、自分の特徴に目を向け、長所を伸ばしていこうとする実践意欲を育てる。

	主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T　予想される児童の反応:C	○研究主題にせまる６つの手立て □…指導上の留意点　☆…評価　※UD
導入	１.自分のいいところを考える。【発見】 T:自分のいいところは、どんなところだと思いますか。 C:元気に挨拶できるところかな。 C:友達にやさしくできるところかな。 いろいろな自分を知り、「自分らしさ」を見つめよう。	○話題設定の工夫 日直が帰りの会で表彰している個々のよさを伝え、他にも自分のよさを見つけてみたいという気持ちを高め、学びのテーマにつなげる。 ※視覚化・焦点化
展開	２.「『自分らしさ』を見つめよう」を読んで、話し合う。 【対話】：（交流） T:グループになって、それぞれの「『自分らしさ』のまど」を完成させよう。 《１：「友達のいいところ」をカードに書く》 C:○○さんのいいところは、……だな。 《２：自分について「好きなことや得意なこと」「変えたいと思っていること」をカードに書く》 C:好きなことは○○だから、伸ばしていきたい。 《３：友達に書いてもらったカードと自分で書いたカードを「『自分らしさ』のまど」に貼る》 C:友達は、こんなふうに思ってくれていたんだな。 《４：「『自分らしさ』のまど」を見て、気が付いたことや考えたことをまとめる》 ３.友達や自分のいいところを見つけ合う活動を通して、考えたことを発表する。【表現】 T:交流を通して気付いたことを発表しましょう。 C:気付いていなかった自分のよいところを聞くことができ、うれしかった。 C:自分の長所をもっと伸ばしたいと思った。自分の短所は直していきたいと思った。 ４.これから、どんな「自分らしさ」を伸ばしていきたいか考える。【決定】 T:これから自分はどんな「自分らしさ」を伸ばしていきたいと思いますか。 C:友達にやさしくできる自分をこれからも大事にしていきたいな。友達をもっと増やしていきたいな。 C:絵を描くのが好きな長所をもっと伸ばしたいと思った。大人になって好きなことを仕事にしたいな。	□「『自分らしさ』のまど」のワークシートを活用する。 ○話し合い話型の提示 壁掲示してある話型を確認し、交流活動が対話ですすむよう促す。 ○交流の目的と視点の明確化 友達と互いのいいところを伝え合うことで、自分では無自覚だった自分の側面に目を向けさせる。 ※焦点化 ○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 宿泊学習（わくわく自然教室）の生活班や行動班で行う。※共有化 □「人との接し方」、「係や委員会などの仕事に取り組む姿」や「その人らしさ」などの観点を基に例を示し、記入にあたってのヒントとする。 □一人一人が「自分らしさ」について考えたことと、手塚治虫さんのエピソードを重ね合わせ、自分らしさを知り、それを伸ばすよさについて、考えられるようにする。 ☆「自分らしさ」を見つめることで、長所を伸ばしていこうと考えている。（発言・ワークシート）
終末	５.本時の学びを振り返る。 T:　今日の学びを振り返りましょう。 ６.教師の説話	□実生活に結び付けて考えさせる。 ※機能化

【板書計画】



【研究主題にせまる６つの手立てとの関連】

（１）「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

年間を通して学年目標や学級目標への取組を相互評価しているAdvance（アドバンス）ガチャの友達からの誉め言葉を提示し、自分のいいところを再確認させる。宿泊学習での振り返りのコピーを事前にワークシートへ貼り付けておき、友達からの賞賛を思い出すことができるようにする。

話し合いの話型の提示

廊下側の壁面掲示物として、年間を通して目に触れさせているものを、授業中に示して意識させる。特に、「友達の考えを受け止めよう」「友達の考えのいいところを伝えよう」「くわしく知りたいことを質問しよう」の話型について、前向きな交流活動を促すために示すようにする。

（２）「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

宿泊学習（わくわく自然教室）の生活班や行動班で行うことで、グループで協働したことや一人一人のよさを想起しやすくする。また、校外学習に参加できなかった児童がいるため、宿泊学習だけの内容に偏らない配慮をしていく。

交流の目的と視点の明確化

友達と互いのよいところを伝え合うことで、無自覚だった自分の側面に目を向けさせる。交流することが、「自分でもそうだと思っていたところ」であったり、「自分ではそうは思っていなかったところ」であったりする視点を提示し、気付く機会としたい。自分らしさが明確になることで、それが「自分のよさ」として深まっていくよう、自分と他者の考えを比較することを通して、自分自身を多面的・多角的に捉えられるようにする。